Elastic Compute Service (ECS)

クイックスタート

MORE THAN JUST CLOUD | Alibaba Cloud

クイックスタート

概要

概要

クイックスタートの概要部分では、操作手順、目的、対象ユーザーを説明します。

手順

ECS インスタンスを購入の際に、以下の手順にご参照ください。

1. ステップ 1.設定の選択
2. ステップ 2.インスタンスの作成
3. ステップ 3.インスタンスへのログイン
4. Linux の場合、LINUX データディスクのフォーマットとアタッチ。Windows の場合、Windows データディスクのフォーマット。

クイックスタートの目的

クイックスタートは、インスタンスの作成、インスタンスのリモート接続、データディスクのフォーマットとアタッチを素早く完了する方法を説明します。インスタンスの購入と作成から、リモートログイン、迅速な環境配備の実現までワンストッププロセスとなります。

Elastic Compute Service (ECS) インスタンスは、当ドキュメントの中に **ECS インスタンス**と省略され、Alibaba Cloud Elastic Compute Service 、 Elastic Compute Service 、または ECS とも呼ばれます。

対象ユーザー

クイックスタートは、コンソールで ECS インスタンスを操作ある者のためのリファレンスです。

API の利用者は、API のドキュメントを参照してください。

ステップ1.設定の選択

ステップ 1. 構成スキームの選択

ほとんどのユーザーの要件を満たすことができる次の構成方法を推奨します。

- **エントリレベル**: 1 コア CPU、1 GiB メモリ、1 Mbit/s の帯域幅。このスキームは、トラフィックが比較的少ない初期段階の個人サイトに適用されます。
- **高度**: 1 コア CPU、2 GiB メモリ、1 Mbit/s 帯域幅。この方式は、適度なトラフィック、簡単な開発環境、およびコードベースの Web サイトに適用できます。
- **汎用**: 2 コア CPU、4 GiB メモリ、1 Mbit/s 帯域幅。このスキームは、エンタープライズオペレーション、パラレルコンピューティングアプリケーション、および一般的なデータ処理に適用されます。それは 90% のクラウドコンピューティングユーザーの要件を満たすことができます。
- **プレミアム**: 4 コア CPU、8 GiB メモリ、1 Mbit/s の帯域幅。 このスキームは、エンタープライズオペレーション、バッチ処理、分散分析、アプリケーションなど、より高いコンピューティングパフォーマンスを必要とするサービスに適用できます。

構成スキームを確認したら、ECS インスタンスの作成を開始できます。

ステップ 2. インスタンスの作成

この資料では、既存のイメージを使用して ECS インスタンスを作成する方法について説明します。システムディスクのスナップショットからカスタムイメージを作成し、カスタムイメージを使用して ECS インスタンスを作成する場合は、 Elastic Compute Service のユーザーガイド、カスタムイメージを使用してインスタンスを作成するを参照してください。

前提条件

ECS インスタンスの作成を開始する前に、次の作業を行う必要があります。

- Alibaba Cloud にサインアップ アカウントを作成する 。
- お支払い方法を追加 お支払い方法を追加する 。
- あなたの本名で登録する 中国本土内の地域にECSインスタンスを作成する場合は、実名で登録する 。
- VPC と VSwitch を作成する VPC と VSwitch を作成する。 VPC ネットワークの ECS インスタンスを作成します。 VPC と VSwitch がない場合は、デフォルトのものを使用してください。デフォル

トの VPC と VSwitch の詳細については、デフォルトの VPC と VSwitch を参照してください。
- セキュリティグループの作成 とセキュリティルールの追加 セキュリティグループがない場合は、デフォルトのセキュリティグループを使用します。既定のセキュリティグループの詳細については、既定のセキュリティグループルール を参照してください。
- キーペアを使用して認証されたLinuxインスタンスを作成するための SSH キーペアの作成
- ユーザー定義データを書き込む は、インスタンスの起動動作をカスタマイズしたり、ユーザー定義データを渡したりするために使用します。
- インスタンスの RAM ロールを作成してそのパーミッションを付与する インスタンスをロールする権限を与えたい場合。

手順

ECS インスタンスを作成するには、次の手順を実行します。

ECSコンソール にログオンする。

左側のナビゲーションペインで、[*インスタンス*]を選択します。

インスタンスリストページで、**インスタンスの作成**を選択します。

基本設定を完了するには、以下の手順に従います：

i. **請求方法**：サブスクリプションまたは従量課金を選択します。請求方法の詳細については、ECS インスタンスの購入を参照してください。

地域と地域を選択します。リージョンとゾーンの詳細については、リージョンとゾーンを参照してください。

注：

i. インスタンスが作成された後、そのリージョンとゾーンを変更することはできません。
ii. 一部のインスタンスタイプファミリーは、すべてのリージョンでサポートされていません。詳細については、gn4 インスタンスの作成、gn5 インスタンスの作成、 f1 インスタンスの作成 、 f2 インスタンスの作成を参照してください。

インスタンスタイプを選択し、インスタンス数を指定します。利用可能なインスタンスタイプファミリーは、選択されたリージョンによって決定されます。各インスタンスタイプファミリーの利用イメージについては、インスタンスタイプファミリーを参照してください。

注：

i. 各アカウントの従量課金インスタンスのクォータについては、**制限値**を参照してください。
ii. Elastic Network Interface を使用するには、 2 つ以上の vCPU コアを持つエンタープライズレベルのインスタンスタイプか、 4 つ以上の vCPU コアを持つエントリレベルのインスタンスタイプを選択します。インスタンスタイプでサポートされている Elastic Network Interface の数の詳細については、**Elastic Network Interface（ENI）ス**を参照してください。
iii. SSD クラウドディスクを使用するには、 I/O 最適化インスタンスを選択します。

画像を選択します。 **Public Image** 、 **Custom Image** 、 **Shared Image** 、 **Marketplace Image** のリストから画像を選択できます。

注：

i. SSH キーペアを使用するには、 Linux イメージを選択します。
ii. ユーザー定義データを使用する場合は、**ユーザー定義データ**で説明したリストに従って画像を選択してください。

[ストレージ]：

システムディスク：必須。イメージにはシステムディスクが必要です。システムディスクのクラウドディスクのカテゴリとサイズを指定できます。使用可能なカテゴリは、選択したリージョンによって決まります。 デフォルトサイズは 40 GB です。サイズの範囲は、選択したイメージによって異なります。

- Linux (CoreOS を除く) と FreeBSD：20 GB ～ 500 GB
- CoreOS：30 GB ～ 500 GB
- Windows：40 GB ～ 500 GB

データディスク：オプション。作成時、もしくはインスタンスを作成した後で、データディスクを追加することができます。作成時にデータディスクを追加するには、データディスクのカテゴリ、サイズ、および数量を指定します。空のデータディスクを作成したり、スナップショットからデータディスクを作成することができます。最大 16 のデータディスクを追加できます。

注：ここに追加されたデータディスクには、インスタンスと同じ請求方法があります。サブスクリプションデータディスクはインスタンスと共にリリースされ、従量課金データディスクもインスタンスとともにリリースされるように設定できます。

iii. ローカルストレージ：ローカルディスクを持つインスタンスタイプ（ i1 、d1 、または d1ne ファミリのインスタンスタイプなど）を選択すると、ローカルストレージ情報が表示されます。選択したインスタンスタイプによって決定されるローカルストレージの数量またはカテゴリを指定することはできません。詳細については、インスタンスタイプファミリを参照してください。

次へ：ネットワークをクリックして、ネットワークおよびセキュリティグループの設定を完了します。

ネットワーク：デフォルトの **VPC**（仮想プライベートクラウド）を使用して、 VPC と VSwitch を選択します。 VPC と VSwitch がない場合は、デフォルトのものを使用できます。

> **注**：ネットワーク上のユーザーエクスペリエンスを向上させるため、 Alibaba Cloud は 2016 年 6 月 16 日（ UTC+8 ）の 12:00 から VPC がデフォルトのネットワークタイプとして設定されるようになりました。あなたのリージョンでスイッチが開始していない場合は、クラシックネットワークの ECS インスタンスを作成でき、 VPC は唯一のオプションとなります。

ネットワーク請求方法の設定：*インスタンスにパブリック IP アドレスを割り当てるには、**[パブリック IP を割り当てる]**を選択し、帯域幅としてゼロ以外の値を指定します。**PayByTraffic** はネットワーク請求方法の唯一のオプションです。インスタンスから割り当てられたパブリック IP アドレスをアンバインドすることはできません。ネットワーク請求の詳細については、**ネットワーク帯域幅の請求**を参照してください。* インターネットアクセスのためにElastic pablic IP（EIP）アドレスを使用するには、**パブリックIPを割り当てる**を選択しないでください。インスタンスから EIP アドレスのバインドを解除することができます。

セキュリティグループを選択します。デフォルトのセキュリティグループを使用できます。詳細については、既定のセキュリティグループルールを参照してください。

Elastic network interfaces を追加します。選択したインスタンスタイプがElastic network interfacesをサポートしている場合は、追加して VSwitch を指定できます。既定では、Elastic network interfacesはインスタンスとともにリリースされます。 ECS コンソールのインスタンスまたは DetachNetworkInterface インターフェイスを使用して、このインスタンスをデタッチできます。

（オプション）[次へ：システム構成**]をクリックして、次の構成を完了します。

[ログオンする]を選択して設定します。 Linux インスタンスの資格情報としてパスワード

または SSH キーペアを選択できますが、Windows インスタンスのパスワードのみを選択できます。インスタンスが作成された後で、信任状を設定できます。

ECS コンソールに表示されるインスタンス名とゲスト OS 内に表示されるホスト名を指定します。

インスタンスの **RAM の役割やユーザー定義のデータなど、**高度な**設定を設定します。

（オプション）**[次へ：グループ化]** をクリックします。将来の管理を簡素化するために、インスタンスにタグを追加することができます。

[次へ：プレビュー]をクリックして注文を確定します：

（オプション）**Configurations Selected** エリアで、すべての設定を確認します。設定を変更することができます。

（オプション）従量課金インスタンスを作成する場合は、 **Auto Release Schedule** を選択してリリース計画を設定します。

（オプション）サブスクリプションインスタンスを作成する場合は、 **Purchase cycle** を指定し、 **Auto-Renew** を選択します。

Instance Cost は、インスタンスタイプ（ vCPU + RAM ）、システムディスク、データディスク（存在する場合）、およびローカルディスク（存在する場合）のコストの合計です。パブリック IP アドレスが割り当てられている場合は、**公衆トラフィック料金**が表示されます。

ECS サービス規約および製品利用規約*を確認してください。

注文を作成をクリックし、説明に従ってインスタンスをアクティブにします。

インスタンスがアクティブになると、 ECS コンソールに移動して、インスタンス名、パブリック IP アドレス、プライベート IP アドレスなどのインスタンスの詳細を表示できます。

フォローアップ操作

ファイル転送用の FTP サイトをインスタンス上に作成することができます。詳細は、FTP サイトを ECS インスタンスで構築するを参照してください。

インスタンスとともにデータディスクを作成する場合は、ディスクをパーティションに分割してパーティシ

ョンをフォーマットする必要があります。インスタンスが Linux OS に基づいている場合は、データディスクのフォーマットとマウントを参照してください。インスタンスがWindows OSに基づいている場合は、データディスクのフォーマットを参照してください。データディスクを分割して作成する場合、 ディスクを接続しなければなりません。その後、ディスクを分割してフォーマットしてください。

作成後にインスタンスを保護するには、セキュリティコンプライアンスの検査と設定を以下の環境で実行することをお勧めします。

- Linux インスタンス： *Security Advisories* の Linux のオペレーティングシステムセキュリティの強化を参照してください。
- Windows インスタンス： *Security Advisories* の Windows のオペレーティングシステムセキュリティの強化を参照してください。

ステップ 3. インスタンスへのログイン

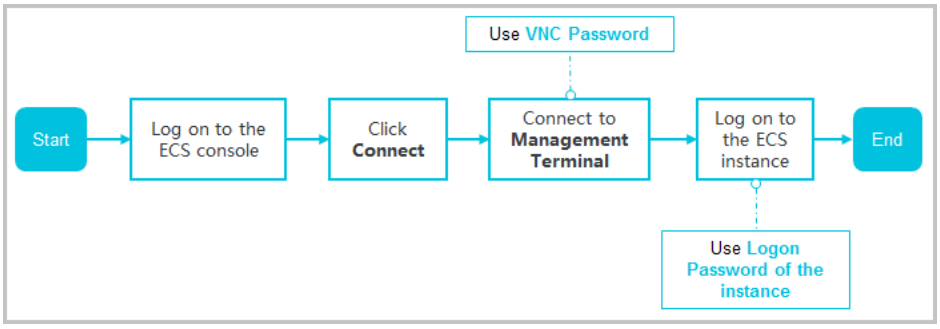
Alibaba Cloudでは**「マネージメントターミナル」**を提供しており, たとえインターネット接続用の帯域を購入していなくてもウェブブラウザでECSインスタンスに接続できます。

他の方法でもECSインスタンスに接続できます。

- Linuxインスタンスへの接続はWindowsからはSSHクライアントを使用し、LinuxまたはUNIXからはSSHコマンドを使って**「SSH キーペア」** や **「パスワード」**認証で接続できます。
- Windowsインスタンスへの接続は**「ローカルコンピュータからアクセスするためのツール」**を参照してください。

操作手順

次のフローチャートはウェブブラウザを使ってのECSインスタンスへの接続方法を表しています。



ウェブブラウザを使ってのECSインスタンスへの接続は次の手順に従ってください。

[ECSコンソール] にログインします。

左ペインの**[インスタンス]**をクリックします。

リージョンを選択します。

インスタンスリストで該当するインスタンスを探し、右横にある**[アクション]**の**[VNC]**をクリックします。

次に**「マネージメントターミナル」**への接続方法をご説明します。

- 初めて**「マネージメントターミナル」**にログインする場合は次のステップへ
  a. **[VNC接続パスワード]**のダイアログボックスが表示されますのでパスワードをコピーします。

     パスワードは一回しか表示されませんので、直ちに記録した後、厳重に保管してください。もし新しいパスワードが必要になった場合は**「パスワードの変更」**を参照してください。

  b. **[閉じる]**をクリックして **[VNC接続パスワード]**ダイアログボックスを閉じます。
  c. **[VNCパスワードを入力]**ダイアログボックスで先ほどコピーしたパスワードを入力してから**OK**を押してダイアログボックスを閉じます。

「マネージメントターミナル」への接続が初めてではない場合、**[VNCパスワードを入力]**ダイアログボックスにパスワードを入力してから**[OK]**を押してダイアログボックスを閉じます。

パスワードを紛失したり忘れた場合は次の手順のように行ってください。

a. パスワードの変更.
b. **「マネージメントターミナル」**の上部左側にある**[リモートコマンドの送信]** > **[管理端末に接続]**を選択する。
c. **[VNCパスワードを入力]**ダイアログボックスで新しいパスワードを入力してから**[OK]**を押してダイアログボックスを閉じます。

ECSインスタンスにログインするにはオペレーティングシステムに従って次のように行います。

- Linuxインスタンスにログインする場合はユーザ名とパスワードを入力してください。
  - インスタンスのログインパスワードを紛失した場合は**「パスワードのリセット」**を参照してください。
  - ログインパスワードは入力時には見えません。
  - インスタンス内で別の操作を行いたい場合は**「マネージメントターミナル」**の左上部にある**リモートコマンドの送信** > **CTRL + ALT + Fx**を選択します。(**Fx**は**F1**から**F10**までのどれかを割り当ててください)
  - 黒い画面が表示されている場合、システムは休止状態です。いずれかのキ

ーを押して復帰させてください。

- Windowsインスタンスにログインするには**「マネージメントターミナル」**の左上部にある **リモートコマンドの送信** > **CTRL+ALT+DELETE** を選択します。Windowsのログイン画面が表示されますのでユーザ名 (**Administrator**) とパスワードを入力してください。

  インスタンスのログインパスワードを紛失した場合は**「パスワードのリセット」**を参照してください。

VNC接続用パスワードの変更

VNC接続用のパスワードを紛失した場合は次の手順によりパスワードの変更してください。

注意: I/O最適化されていないインスタンスに接続している場合、パスワードの変更を反映されるためにはインスタンスの再起動が必要となります。 再起動にはインスタンスの停止と業務の中断が伴いますので、パスワードの変更には十分注意してください。

「マネージメントターミナル」ページを開く。

[VNC接続パスワード]ダイアログボックスまたは**[VNCパスワードを入力]**ダイアログボックスを閉じる。

「マネージメントターミナル」の右上部にある**[管理端末のパスワードの変更]**をクリックします。

新しいパスワードを入力します。パスワードには大文字、小文字、数字を含む長さ6文字(特殊文字はサポート外)

新しいパスワードを反映させます。

- I/O最適化されているインスタンスでは新しいパスワードの変更は即時反映されます。
- I/O最適化されていないインスタンスではECSコンソール上で**インスタンスの再起動**を行ってください。 インスタンス内で直接再起動を行っても新しいパスワードは適用されません。

データディスクのフォーマット

LINUXデータディスクのフォーマットとアタッチ

インスタンスの作成時にデータディスクを選択した場合、インスタンスへのログイン後に、まずデータディスクのフォーマット、次にデータディスクのアタッチが必要になります。

サービス要件に基づいて、複数のデータディスクパーティションを設定することもできます。パーティション分割には、システムに組み込まれているツールの使用をお勧めします。

注意: ECS では、**データディスク**のみパーティション分割できます。**システムディスク**パーティション分割はできません (Windows および Linux OS)。サードパーティツールを使用して無理にシステムディスクのパーティション分割を行うと、システムのクラッシュやデータの損失など、予測できないリスクを招く可能性があります。

この操作は、**I/O が最適化されていない、SSD クラウドディスクの Linux** (Redhat、CentOS、Debian、Ubuntu) インスタンスに適用されます。

データディスクのフォーマットとアタッチを行うには、次の手順を実行します。

1. リモート接続ツールを使用します。ユーザー名 **root** と適切なパスワードを使用して、インスタンスにログインします。

   fdisk -l コマンドを使用して、データディスクを表示します。**注意**: データディスクのパーティション分割とフォーマットを行うまで、**df -h** コマンドを実行してデータディスクを表示することはできません。次の例では、5 GB のデータディスクをアタッチする必要があります。
   fdisk -l コマンドの実行後に /dev/xvdb が見つからない場合は、インスタンスにデータディスクがないことを示しています。このため、アタッチは必要ありません。その場合は、この章をスキップできます。

```
[root@xxxx ~]# fdisk -l

Disk /dev/xvda: 42.9 GB, 42949672960 bytes
255 heads, 63 sectors/track, 5221 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x00078f9c

Device Boot Start End Blocks Id System
/dev/xvda1 * 1 5222 41940992 83 Linux

Disk /dev/xvdb: 5368 MB, 5368709120 bytes
255 heads, 63 sectors/track, 652 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x00000000
```

3. 次のコマンドを実行してデータディスクをパーティション分割します。

```
fdisk /dev/xvdb
```

プロンプトごとに「**n**」、「**p**」、「**1**」の順に入力し、Enter キーを 2 回押して、「**wq**」と入力します。パーティション分割が始まります。

```
[root@xxx ~]# fdisk /dev/xvdb
Device contains neither a valid DOS partition table, nor Sun, SGI or OSF disklabel
Building a new DOS disklabel with disk identifier 0x33eb5059.
Changes will remain in memory only, until you decide to write them.
After that, of course, the previous content won't be recoverable.

Warning: invalid flag 0x0000 of partition table 4 will be corrected by w(rite)

WARNING: DOS-compatible mode is deprecated. It's strongly recommended to
switch off the mode (command 'c') and change display units to
sectors (command 'u').

Command (m for help): n
Command action
e extended
p primary partition (1-4)
p
Partition number (1-4): 1
First cylinder (1-652, default 1):
Using default value 1
Last cylinder, +cylinders or +size{K,M,G} (1-652, default 652):
Using default value 652

Command (m for help): wq
The partition table has been altered!

Calling ioctl() to re-read partition table.
Syncing disks.
```

fdisk -l コマンドを実行して、新しいパーティションを確認します。新しいパーティション xvdb1 が作成されています (以下の /dev/xvdb1 など)。

```
[root@xxx ~]# fdisk -l

Disk /dev/xvda: 42.9 GB, 42949672960 bytes
255 heads, 63 sectors/track, 5221 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x00078f9c

Device Boot Start End Blocks Id System
```

```
/dev/xvda1 * 1 5222 41940992 83 Linux

Disk /dev/xvdb: 5368 MB, 5368709120 bytes
255 heads, 63 sectors/track, 652 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x33eb5059

Device Boot Start End Blocks Id System
/dev/xvdb1 1 652 5237158+ 83 Linux
```

次のコマンドを実行して、新しいパーティションのフォーマットを行います。フォーマットの所要時間は、データディスクのサイズによって異なります。ext14 など、他のファイル形式を選択することもできます。

```
[root@xxx ~]# mkfs.ext3 /dev/xvdb1
```

次のコマンドを実行して、新しいパーティション情報を書き込みます。

```
[root@xxx ~]# echo '/dev/xvdb1 /mnt ext3 defaults 0 0'>> /etc/fstab
```

完了したら、cat /etc/fstab コマンドを実行して情報を確認します。
注意: Ubuntu 12.04 では、バリアがサポートされていません。そのため、このシステムでの適切なコマンドは次のようになります。

```
[root@xxx ~]# echo '/dev/xvdb1 /mnt ext3 barrier=0 0 0'>>/etc/fstab
```

データディスクを別々のフォルダーにアタッチするには (たとえば、Web ページを別々に保存する場合など)、上のコマンドで /mnt の部分を変更します。

mount /dev/xvdb1 /mnt コマンドを実行して、新しいパーティションをアタッチします。次に、**df -h** コマンドを実行してパーティションを確認します。データディスク情報が表示されたら、アタッチは成功しており、新しいパーティションを使用できます。

```
 [root@xxx ~]# mount /dev/xvdb1 /mnt
[root@xxx ~]# df -h
Filesystem Size Used Avail Use% Mounted on
/dev/xvda1 40G 1.5G 36G 4% /
tmpfs 498M 0 498M 0% /dev/shm
/dev/xvdb1 5.0G 139M 4.6G 3% /mnt
```

注意: ECS では、仮想化ソフトウェア (KVM、Xen、VMware など) のインストールおよびデプロイメントがサポートされていません。

Windowsデータディスクのフォーマット

> Linuxインスタンスでデータディスクをフォーマットする場合は、Linux _データディスクのフォーマットとマウントを参照してください。

すでにデータディスクをECSインスタンスに接続している場合は、インスタンスにログオンして、データディスクをパーティション化してフォーマットして使用する必要があります。このドキュメントでは、新しいデータディスクを使用して単一パーティションのデータディスクを作成し、そのパーティションをフォーマットする方法について説明します。ビジネスニーズに応じて、データディスク上に複数のパーティションを作成することもできます。

> **警告：**
>
> - ディスクパーティショニングとフォーマットは危険度の高い操作ですので、慎重に進めてください。このドキュメントでは、新しい空のデータディスクを処理する方法について説明します。データディスクにデータがある場合は、データ損失を避けるために、データディスクのスナップショットの作成があることを確認してください。
> - ECSは、システムディスクではなく、データディスクのパーティション分割のみをサポートします。サードパーティツールを使用してシステムディスクを強制的にパーティション分割すると、システムクラッシュやデータ損失などの不明なリスクが発生する可能性があります。

前提条件

個別に購入したデータディスクの場合は、パーティショニングと書式設定の前にデータディスクのアタッチを実行する必要があります。

> インスタンスと共に購入されたデータディスクは、添付されずにパーティション分割およびフォーマットすることができます。

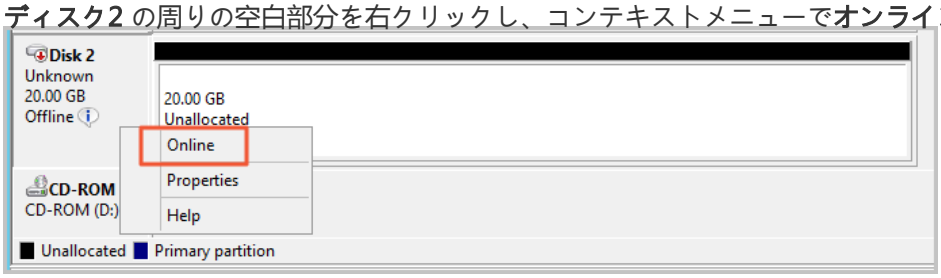
手順

この例では、64ビットのWindows Server 2012 R2で20 GBのデータディスクをパーティション化してフォーマットする方法について説明します。

インスタンスに接続。

Windows Serverデスクトップで、[スタート]アイコンを右クリックし、[**ディスク管理**]を選択します。フォーマットされていないデータディスク（この例では**Disk 2**）は、**オフラインステータス**です。

ディスク2 の周りの空白部分を右クリックし、コンテキストメニューで**オンライン**を選択します。



オンラインになった後、 **Disk 2** のステータスは **Not Initialized** と表示されます。

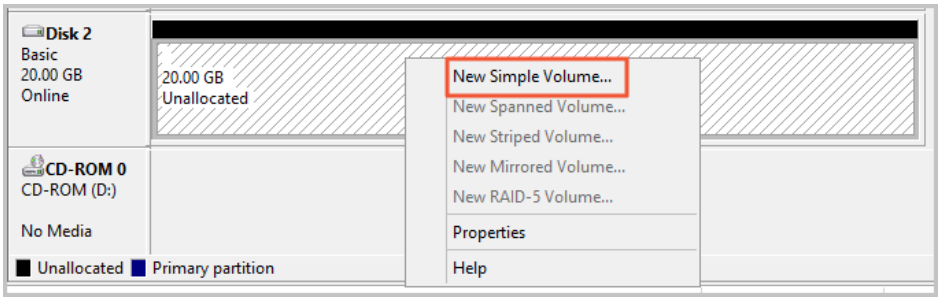
Disk 2 の周りの空白部分を右クリックし、コンテキストメニューで**ディスクの初期化**を選択します。

ディスクの初期化ダイアログボックスで、**ディスク2** を選択し、パーティション方法を選択します。

- **MBR** はまだ最も一般的なパーティショニング方法です。ただし、この方法では、最大2TBのパーティションサイズと最大4つのプライマリパーティションの作成のみがサポートされています。ディスクを4つ以上のパーティションに分割する場合は、プライマリパーティションを拡張パーティションとして使用して、そのパーティションに論理パーティションを作成する必要があります。
- **GPT** は、以前のバージョンのWindowsでは認識されない新しいパーティション分割方法です。GPTがサポートできる最大パーティションサイズは、オペレーティングシステムとファイルシステムによって決まります。Windowsオペレーティングシステムでは、GPTは最大128のプライマリパーティションの作成をサポートします。

この例では、MBRパーティショニング方法を選択し、 **[はい]** をクリックします。

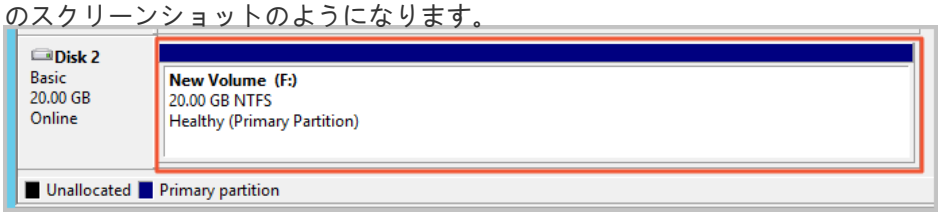
Disk Management ウィンドウで、 **Disk 2** の **Unallocated** 領域を右クリックし、 **New Simple Volume** を選択します。



新しいシンプルボリュームウィザードで、次の操作を行います。

i. **[次へ]** をクリックします。
ii. **ボリュームサイズの指定**：作成するシンプルボリュームのサイズを指定します。プライマリパーティションが1つだけ必要な場合は、デフォルト値を使用して、[次へ]をクリックします。
iii. **ドライブ文字またはパスの割り当て**：ドライブ文字を選択します（この例では、F）。**[次へ]** をクリックします。
iv. **フォーマットパーティション**：ファイルシステム、アロケーションユニットサイズ、ボリュームラベルなどのフォーマット設定を選択し、**クイックフォーマットの実行**と**ファイルとフォルダの圧縮の有効化**を行うかどうかを確認します。ここではデフォルト設定を使用してください。 **[次へ]** をクリックします。
v. 新しいシンプルボリュームの作成を開始します。新しいシンプルボリュームが作成されたら、 **Finish** をクリックして**新しいシンプルボリュームウィザード**を閉じます。

パーティションのフォーマットが完了すると、 **Disk Management** の **Disk 2** のステータスは、次のスクリーンショットのようになります。



このPC の新しいドライブ **New Volume（F：）**を見ることができます。これは、データディスクが使用できる状態になったことを意味しています。